

---

# 真剣で闇を恋しなさいっ！！

Scarlet ZoomAir After The Fainal

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

真剣で闇を恋しなさいっ！！

### 【Zコード】

N2451BA

### 【作者名】

Scarlett ZoomAir After The Fail  
nal

### 【あらすじ】

真剣恋の一次。主人公最強系。だが弱点（？）あり。

見切り発車…

あれ？ 私過去ってよく知らないような……もしかしたら飛ばすかも  
…… それか最初の過去編はオリジナルストーリーかな？

はじめまして……とだけは言つておこう。

俺の名前は『凱戦<sup>ガイセン</sup>鶴<sup>ヌイ</sup>』。転生者だ。俺の名前は親につけられた。だから厨二病だとかは言わないと助かる。

さて、まず今の状況を言おうか。

今、俺は本当の家から遠く離れた街のある門の前に捨てられる。所謂捨て子状態な訳だ。

別に恨んだりはしていないがな。俺は神に特典として『万華鏡車輪眼』と『アニメや漫画に出る武術や技を使えること』、『ステータスマックス』をもらっている。

つまり、俺の力の一端を見てしまった両親は俺を恐れて捨てた。それも川神市の武道の総本山とされる川神院の門の前に捨てられたといつ訳だ。

人は自分とは違う者や力を見ると本能的に恐怖心を持つことが多い。だから俺を捨てるのは当たり前の結果だといつていいだろう。逆に川神院の門前まで運んでもらったのだ。感謝したいぐらいだ。因みに俺はまだ0歳だ。あの川神鉄心なら俺の力を見抜いて引き取るだろうから衣食住は安泰だ。

後はこの世界を楽しむだけだな。

む？

門から老人が……なるほど。彼が川神鉄心だな。凄まじい氣だ。

「捨て子か？……つ！？なんとつ！凄まじい氣の量じゃ……それにこやつの眼も……とにかく中に入れるとしようかの……ん？」

なにかを見つけた鉄心はそれを手に取ろうと、俺が入れられているダンボールに手を伸ばす。

「こやつの名前と……本？本は後で見るとして……完全に捨て子じやな。普通なら孤児院に渡すのじやが、こやつの氣の量と眼なら孤立するのは目に見えてある……仕方がない。家うちで引き取るかのう……。」

決断はええなじいさん。まあ助かるがな。これからよろしく頼むぜじいさん。すでに万華鏡車輪眼は開眼してるからあんた達の技、盗ませて貰うぜ？

あ、因みだが……俺の万華鏡車輪眼はうちはマダラが弟の車輪眼を移植して完成させた万華鏡車輪眼だから失明はしないぜ。でも、風間ファミリーに入つてからは使つたびに視力が低下するらしい。使つていうか、何故か俺の万華鏡車輪眼には発動条件があつて、その発動条件を満たしてしまつと勝手に発動してしまつみたひなのだ。その発動条件は『ダメージを受けること』。もちろん自発的に万華鏡車輪眼を発動することはできるけど、ダメージを受けると強制的に発動してしまう。とは言つても発動するのは洞察眼だけだが。洞

察眼だけだが万華鏡車輪眼が発動していることには変わりないから  
視力は下がりますがね。

つまり、俺は大和が百代の師弟になる時までに色々技を覚えないと  
ならないということになるな。

つてことはそれまで修行の毎日になるわけだ。……バレないよつこ  
氣のコントロールの練習しどこ。

へりー。

やつとのことで小学生になつた。まつたけ……赤ちゃんプレイとやらは疲れるな。あまりにも嫌すぎて泣いたりしなかつたら鉄心に自我があるつてバレる寸前までいつちまつた。あれは危なかつたな。

因みに俺は3歳ぐらいから川神院で特訓をさせて貰つてゐる。ああ、どんどん吸収させて貰つたぜ。3歳で一回したらできました、じゃ昔から川神院に通つてゐる僧に悪いから一回一回間違えてからだけどな。

どつやらせの心遣いがじいさんと『ルー・イー』師範代・・・またの名をルウ 酒郎と名付けてみる。……渾名は酒郎さんだな。……怒られそうだから中国でいいか?ダメ?まあ、どつちでもいいが。 - - と『シャカドウ釈迦堂<sup>シャカドウ</sup>』刑部<sup>ギョウブ</sup> 師範代 - - 混名は強面さんだ。 - - にはバしゃりまつたみたいだ。なにあいつら、バケモンですか?

しかし、それよりも驚いたのは俺の給食の『ザーゲート』の桃ゼリーを勝手に食おうとしていること。

「百代、お前は誰の桃ゼリーを食べよつとしてんだけ?」

「鶴のだが?」

「……今日は一人で寝る。」

なんか知らんが騒いでいるこいつ『川神

なんとあの川神百代と同年代なんだぜ？俺はてっきり風間ファミリーの面々と同年代かと思つてたからな。初めて会つたときはビックリしてじいさんがボケたのかと勘違いしちまつたぐらいだからな。あの時のじいさんの顔は笑えたぜ。

そんなこんなで俺は学校からさつと帰ることにする。もちろん両代も一緒に。

あ、一応桃ゼリーの件は許してやつた。  
くれつていつてきたからな。役得役得。  
抱きついてきてまで許して

「で？お前はいつまで俺の部屋で過ごすつもりだ？」

「鶴が居る限りだ。」

即答がよ。

そうなのだ。何故かこいつ、俺の部屋に私物を置いて俺にくつこて離れない。寝るときも、部屋からりでるときも、トイレに行くときもついてくる。

なに?—いつ本当にあの百代ですか?別に好戦的でもないし……訳

が分からん。ていうか軽くストーカーじゃね？てかおもつたり。

「……今日も一緒に寝るのか？」

「当たり前だ」

そういうながら抱きついてくるな馬鹿野郎。胸が当たつてるんだよ。

……なんだかんだいっても許す俺も俺だがな。

言い忘れていたが俺はカラコンとかはつけていない。普通に万華鏡車輪眼をさらけ出している。

当然だが……虐めにあつた。虐めの理由なんか適当でいいし、俺はみんなと眼が違うし、容姿端麗な百代といつも一緒にいるんだ。良い標的になつた。

ま、普通に凄んだら逃げていくけどな。勇氣があるやつは殴りかかってくるから一発殴られてから殴り返す。その時に一発は一発だ。なんて言つたら周りの奴らも恐れて虐めてこなくなつたけどな。

百代の方にも俺を引き離さうとする動きがあつたが、そういうこと嫌いな百代だ。普通に殴つてた。

そんなことを続いていると何故か『川神の双頭』とか『厨二病な渾名』がついついまた。風間ファミリー入隊フラグが立つてしまつたつうことだな。



## 真剣でやる話

ついでに2018年になっちゃった。

これを記念して前々から着々と技を考えていた技を我流の武術、『凱戦流戦闘術零式』つていう名前にして作ってみた。

因みにネタでやってみたらできたアニメとかの技を『凱戦流戦闘術 壱式』にして、零式と壹式を改造した技を『凱戦流戦闘術式式』として扱ってる。別に言葉にしなくても良いのだが、面白いので書つことにした。

そして、じいさんや中国、強面、百代に百人組み手の時に見せてみたら

「『凱戦流戦闘術壹式・壹之型・嵐遁【雷雲腔波】』」

「なんと……その歳で自身の流派を作つてしまひとは……」

「規格外ネ。バグつてゐるア。」

「おもしれえじゃねえの。俺と死合してみねえかあ？」

「流石は私の鶴だつ！」

とか言われた。

誰がお前のだ。後、死合いとか勘弁だから。中国黙つてゐ。じいさん……あんただけが普通の反応だよ。ありがとア。

ていつか技名長い。面倒すぎるだ。鳴之型はNARUTOのネタつて決めてやつてみたけど……百人組み手の相手である僧達みんな気絶しちまつた。

かわいそうに……今度から普通に戦おつかな……

「じいさん、今日の鍛錬は終わつたからひょと散歩してくる。」

「おお、わかつた。遅くならんつひつ帰つてくるんじやベア。」

「ああ、保証はできねえが……適当に帰つてくる。」

「…………お主、守る気ないじゃね。」

……無視無視。

「……」で「あ、ねえけど？」とかいつたら散歩行けねえしな。適当に「はい」って答えたらいし？

俺、正直者だから無理だ。

戯れ言だけだ。

「待て鶴。せめて腕組ませる。」

「なんだ？ 追いかかって？ よし、なら私が捕まえたらキスしては悪くはない。」

「…………ランニングでもするかな。瞬歩でも使おつかと本気で考えた俺

やる。」

捕まりたくなつた俺は悪くないつ……

「やめた。キスしたいなら勝手にしちゃ。俺は早く『あそこ』に行

きたいんだ。」

「また行くのか？まあ、私も鶴とイチャイチャできるから良こんだけどな。」

「たまに先客がいるけどな。まあ、居ても関係ないが。」

今から行くのは近くの河原だ。俺はそこで寝ることが好きで、よく行く。それに百代もつこてくるとこうだしだけだ。いつもつこてくるど……甘えん坊には困ったもんだ。

可憐いから良いけどな。

結局、帰ったのは8時くらいになつた。

「早く帰るまい言つたじいがつー。」

「ああ。保証しなこつて言つたひっじ、お休み。」

言つてなかつたが、俺の部屋は川神院の離れだ。飯も自分で作つて食べている。まあ、俺だけじゃなくて百代と一緒に作つてる訳だが……材料は一人のお小遣いを俺が管理して、商店街の人たちに安く売つてもらつている。

子供特典つて……最高だよな。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2451ba/>

---

真剣で闇を恋しなさいっ！！

2012年1月8日19時50分発行